

## 臨床データ利用のお願い

豊田厚生病院では、以下の研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることを希望されない場合など、お問い合わせがありましたら以下の問い合わせ先にご連絡ください。

### 1. 研究課題名

Iliac EVT 時における ESD について、PCXMC を用いた場合と臨床値の比較  
患者被ばく線量、組織臓器線量の把握

### 2. 研究責任者

豊田厚生病院 診療協同部 放射線技術科 村山 和宏

### 3. 研究の概要

末梢動脈疾患（PAD：Peripheral Artery Disease）に対する、下肢閉塞性動脈硬化症の血管内治療を EVT（Endovascular Therapy）と言います。動脈硬化の進行により、特に足の動脈では血流が悪くなったり（狭窄）、血流が途絶えたり（閉塞）したりすると、足が冷たくなったり（冷感）、しびれたり、歩行時に下腿のふくらはぎの筋肉が痛くなったりする症状がでてきます。このような病気を閉塞性動脈硬化症（ASO）といいます。豊田厚生病院でも、これらの疾患に対して年間 50 症例程度治療を施行しています。

当院は 2016 年に医療被ばく施設認定を受審し、患者さんからの被ばく相談や、各検査ごとの患者被ばく線量を算出し、線量管理を行っています。患者被ばく線量把握方法としては、PCXMC というモンテカルロ法(注 3)にもとづいた、患者の臓器線量と実効線量をシミュレートするソフトウェアを用いたり、人体等価アクリルファントムを利用し X 線透視撮影条件、被ばく線量率等を測定し、臨床値に換算し行っています。

本研究は、総腸骨動脈ステント治療を施行した際の、患者入射皮膚線量値と PCXMC を用いシミュレートした値を比較することを目的とした。

(注 1) 確定的影響：ある一定量の放射線を受けると、必ず影響が表れる現象

(注 2) しきい線量：確定的影響を誘発する、ある一定量以上の放射線量

(注 3) モンテカルロ法：乱数を用いたシミュレーションを何度も行って、近似的な解を得る数値計算の手法。

### 4. 研究の方法

#### ① 研究の対象者

2014 年 7 月 1 日～2018 年 6 月 30 日までの期間に、豊田厚生病院で総腸骨動脈カテーテル治療を受けた患者

#### ② 調査項目：電子カルテ、測定機器から下記の情報を調査します

- ・ 総腸骨動脈カテーテル治療時の、透視時間

- 総腸骨動脈カテーテル治療時に、患者が受けた被ばく線量（装置線量表示値、最大皮膚線量）
- 総腸骨動脈カテーテル治療時における、シミュレートソフトを用いて患者が受けた被ばく線量（患者入射表面線量、組織臓器線量）

## 5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：豊田厚生病院 診療協同部 放射線技術科 村山 和宏

〒470-0396

豊田市浄水町伊保原 500-1

電話：0565-43-5000（代表）